

色々なスタイルの研修にも柔軟に対応！社員に伝わる研修を実現

【大日本印刷株式会社】

CASE Study

Vol. 02

ひとことで『研修』と言っても、その実施スタイルは様々。デジタルペンを用いた参加型会議支援ツール「OpenSTAGE」は、いくつものスタイルでの共用が可能です。大日本印刷では、OpenSTAGEを用いて、社員に伝わる活きた研修を実践しています。

Style 1 若手社員フォローアップ

板書しながら進める研修

広い研修会場は
後方の席から板書が見づらい…
スクリーンに映して解決！



詳細は2ページ

Style 2 新入社員研修

受講者が演習の発表をする研修

言葉だけでは伝わりにくい…
書いて見せれば説明しやすい！
多様な受講者への対応も可



詳細は3ページ

Style 3 管理職研修

講義資料に沿って進める研修

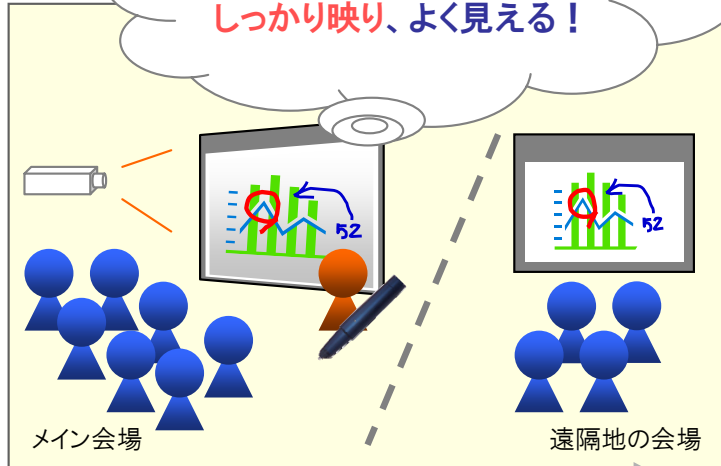
レーザーポインタは見づらい…
デジタルペンなら大型スクリーンでも
強調ポイントが鮮明に映る！



Style 4 入社2年目の基礎研修

遠隔会議システムを使った研修

遠隔地の画面にも記載内容が
しっかり映り、よく見える！



(イメージ)

詳細は別紙

■用途

入社3年目になった若手社員が対象の「フォローアップ教育」で、講師の板書に利用。

1回あたり約50名の社員が、7~8グループに分かれて受講する。

(写真4)
最後方の席から見た会場風景

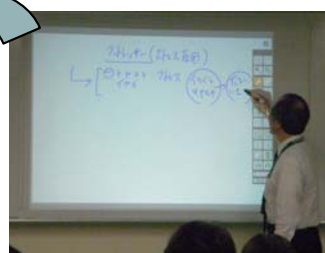


■利用方法

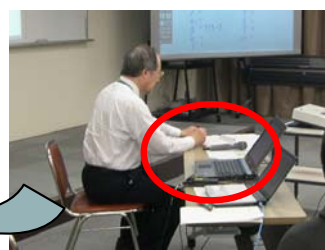
既設のホワイトボードにOpenSTAGE付属のドットスクリーンを貼りつけ、**ホワイトボードと同じように使用。**(写真5)

ドットスクリーンに板書した内容を、既設の大型スクリーンに投影しながら講義を進める。(写真4赤枠部分)

また、いつでもどこからでも板書ができるように、白紙ページをプリントした紙を用意。講師が**紙を持ち歩き、デジタルペンと一緒に受講者に渡して、その場で意見を書かせる**ことも。



(写真5)
ドットスクリーンに板書をする講師

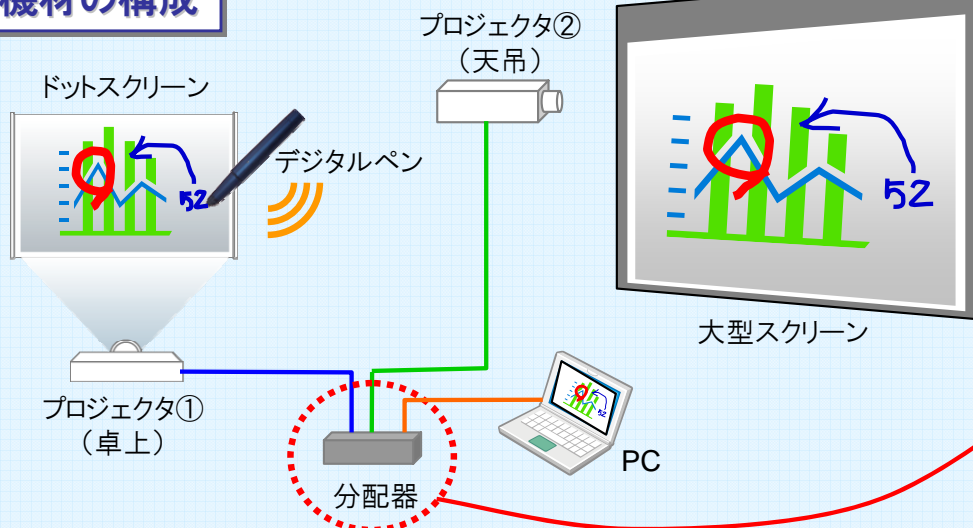


(写真6)
講師席に座りプリントした白紙ページから板書をする講師

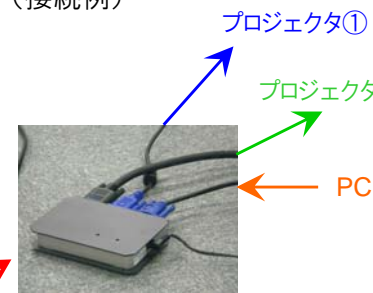
OpenSTAGE利用の効果

- 人数の多い研修はどうしても広い会場になるため、ホワイトボードが遠くて見えにくい席ができてしまう。OpenSTAGEを活用し、**板書を大型スクリーンに映すことで、後方の席からでも鮮明に見える**
- デジタルペンで**手書きの板書をする**と、**デジタルの資料と違って情感がでる**ため、その場に参加した受講者にしか得られない価値が生まれる
- ホワイトボードは筆記面がいっぱいになったら、都度消さないと新しく書けない。OpenSTAGEの場合、**ワンタッチ(デジタルペンでボタンをつつただけ)で新しい白い画面に切り替わる**ため、手間がかからない

機材の構成



分配器と各機器のケーブル
(接続例)



※分配器を使わずに、プロジェクタの直列接続で実現できる場合もあります

■用途

技術系の新入社員(研修生)に対する、導入基礎研修のひとつ「DTP研修」で、講師の資料説明と演習の発表に利用。

横に長い研修会場に、28名の研修生が横3列に並んで受講する。

■利用方法

研修会場の前方中央に、OpenSTAGE付属のドットスクリーンを貼ったホワイトボードを置き、その左右に大型スクリーンを1台ずつ配置。(写真7)

パワーポイントで作成した講義資料を3つのスクリーンに投影し、ドットスクリーンに映った資料に、講師がデジタルペンで補足を記入する。また、講義資料の中に白紙を数ページ用意しておき、ホワイトボードの代わりとしても利用。(写真8) プリントした講義資料とデジタルペンを持ち、研修会場を回りながらの板書も行う。(写真9)

さらに、講義資料の中に演習問題のページを用意してプリント。その問題用紙とデジタルペンを研修生に渡し(写真10)、着席したまま解答を書いて答えさせる。(写真11、12)



(写真7) 研修会場の風景(中央に立つ講師の後ろに置かれているのがドットスクリーン)



(写真8) ドットスクリーンに板書をする講師



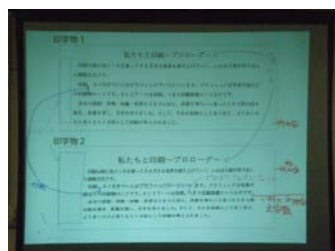
(写真9) プリントした資料から板書をする講師



(写真10)



(写真11) 問題用紙に解答を記入する研修生



(写真12) 研修生が書いた解答がスクリーンに映る



(写真13)

ダイバーシティなどへの取り組みにも対応

ダイバーシティの取り組みや、障がい者雇用制度などによって社員の多様性が増し、研修生の中にも聴覚障がい者と海外出身者が2名、他の研修生と一緒に研修を受けている。

将来、会社の「強み」として期待される彼らのギャップを埋めるツールに、OpenSTAGEの活用を試みた。

◆聴覚障がいをもった研修生のコメント

- 研修生の方を向いて書きながら説明するスタイルを取れるので、スクリーンと研修生のメモだけでなく、講師の口元も読唇できる(写真13)
- 板書がないと、サポート役の研修生が書くメモ、スクリーン(資料)、講師の口元を見て理解する。板書がスクリーンに映ると、口元を見る回数が減り、サポートのメモも少なくなる(=サポート役の研修生の負荷も減る)

◆海外出身者の研修生のコメント

- 知らない言葉が出たときに、講師の言葉(音)だけでは忘れてしまう(字もわからない)ので、板書があるとメモが取れて良い



聴覚障がいをもった研修生も書いて発表



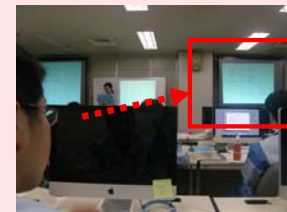
電子辞書

わからない言葉は辞書で調べながら受講

OpenSTAGE利用の効果

- 横長の研修会場かつ、机に1台ずつ置かれたPC画面が視界を妨げ、前方の席でもホワイトボードが見づらいため、板書はほとんど行なっていなかった。OpenSTAGEとスクリーンの併用で、どの席からでも板書が見えるようになり(写真14)、書きながらの説明が可能になった
- OpenSTAGEを使う以前は、演習の解答は言葉だけで発表させていたため伝わりにくかった。研修生にデジタルペンと問題用紙を渡し、手書きした解答を映して説明させることで伝わりやすくなった
- 書いて伝える講義は、健常者だけでなく、障がい者や海外出身者など、多様な研修生にとってわかりやすいものとなり、みんなが同じ時間に同じ場所で一緒に研修を受けられる

PC画面の隙間から右側のスクリーンを見ている



(写真14) 3列目中央の席から撮影した会場前方

●OpenSTAGE は、大日本印刷株式会社の登録商標です。●Bluetoothは、米国Bluetooth SIG,Inc.の登録商標です。●その他すべての社名、ブランド名、製品名は各社の商標または登録商標です。

お問い合わせ先

開発元

大日本印刷株式会社

〒115-8001 東京都北区神谷3-8-1

電話：03-5939-2777

URL：<http://www.dnp.co.jp/bf/digitalpen/main/openstage.html>